



館林城の
再建をめざす会

次号予告

次号(7号)の特集

肴町(さかな)・鍛冶町(かじ)・大工町(だいく)

2022年5月発行予定

館林城下町の花・肴町と隣接する鍛冶町、そして大工町。職人町エリアを探る。

南小学校区(現二小)でもあり、昭和30年代からよく知る町だ。

城下町の風情が今も残る魅力的な町を特集。乞うご期待!

編集後記

昨年から日光脇往還拡張のため、商店街の景観が激変!多くの建物が消えてしまった。何ともいえない喪失感が残るのみ。問題は道路拡張したあとの町の展望が見えない。

今、必要なのは明るい未来を描くこと。中心市街地に城下町の景観を創出させ、町の誇りとシンボルを作る地域交流拠点「城下町ひろば」を提案。

皆さんの熱意と創意工夫で実現させたいと思っています。

令和3年10月吉日 館林城の再建をめざす会・会長 田中茂雄

※前回100円でお買い上げの皆さまへ感謝。寄附もいただきお礼申し上げます! 本誌印刷費に充当しました。今回もよろしくお願いします。
[お礼]よこつか花店、みくに書房さま、安楽岡さま、配布協力ありがとうございました。キヤノン美容室さまご寄付ありがとうございます。

バックナンバーのご案内(年2回・春・秋発行)
創刊号 2019年2月 塚場町特集
創刊2号 2019年10月 日光脇往還特集
3号 2020年4月 鷹匠町特集
4号 2020年10月 大名小路・裏宿特集
5号 2021年5月 紺屋町・谷越町特集

バックナンバーは
Webで公開しています。
↓



“よみがえる館林城下町”

「館林城下町だより」

～6号～

特集 堅町・材木町

緊急提案「城下町ひろば」

編集:館林城の再建をめざす会

発行日:2021年11月1日

発行者:田中茂雄

発行:昇文館

(昇文館:祖父が神田表猿楽町にて明治44年創業)

〒374-0037 館林市小桑原町855-1 優風館

[定価:100円]



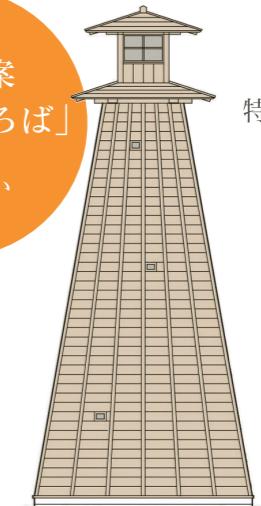
館林城下町だより

2021年11月6号

たつまち ざい もくちょう

特集:堅町・材木町

緊急提案
「城下町ひろば」
7p~11p
ご覧下さい



『箱火の見』

堅町にあった城下町のシンボル!

江戸時代(文政年間)に建設され

老朽化により昭和34年取り壊される。

再建が待望される!

堅町・材木町

Tatsumachi Zaimokuchou

おおつじ
たつまち
ざいもくちょう
館林城下町の中心は大辻。大辻から西に堅町と材木町が連なる。
東は城内へ向かう連雀町(れんじゃくちょう)がある。

ともに城下町の骨格をなす通りで、活気のある商人町であった。

2021年、歴史ある日光脇往還が道路拡張で景観を大きく変え、町の人々を驚かせている。

かつての賑わいを知る者にとって悲しい風景が広がることになってしまった。

谷越ビル、小室商店、堺屋ビル、本誌を配布していた聞声堂書店も…多くの建物が更地となった。

天正18年(1590)榎原康政が築城した時代の原風景にもどりつつある。

それも貴重な光景だが…。

[堅町とは]

商人町である堅町の北に石町がある。石町はその昔、横町と呼ばれていた。その横町に対して堅(タテ)の町。なので堅町! 現代の地図表記では北が上なのでタテとヨコの表現に違和感を覚えるが、江戸時代の方向感覚を味わってほしい。

[材木町とは]

材木商または材木問屋が居住した町。
西北に接する木挽町(職人町で木挽職が居住)と縁が深い町。

[江戸時代:堅町/材木町の戸数]

綱吉時代(延宝2年1674年)

堅町46戸 材木町56戸 塚場町106戸

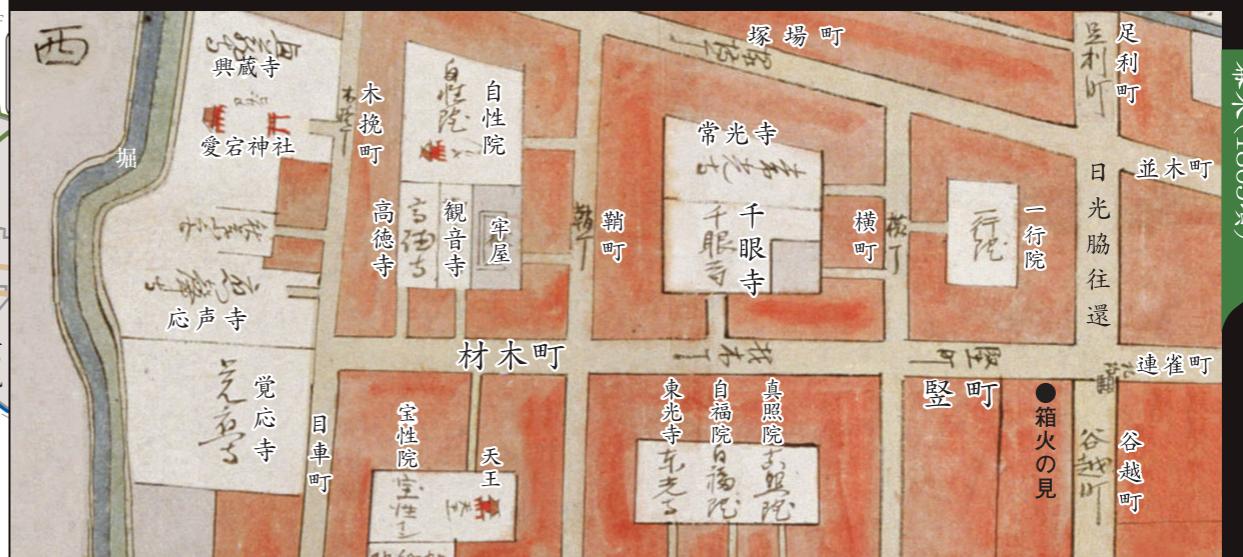
幕末(嘉永元年1848年)

堅町54戸 材木町49戸 塚場町109戸

※堅町・材木町を合わせた戸数に変化がない
塚場町の戸数が最大なのは面積が大きいから。



[綱吉時代と幕末(秋元時代)の絵図を比較する]



【日光脇往還】

八王子→日光までの街道。途中中仙道を経由し佐野(天明宿)で例幣使街道につながる。別名、「館林道」、「千人同心街道」とも。地元では「おうかん」とも言っていた。

【大辻】

館林城下町の中心がココ。
高札が立っていた。(高札場)
両檢断家(青山・小寺)
が居を構えていた。
群馬銀行側に青山家
みずほ銀行側が小寺家だ。

【城下町の構造を知る】

通りに囲まれた中央は
お寺だらけ!?

材木町通りの北街区中央部には真言宗の自性院と觀音寺そして天台宗の高徳寺が建つ。その東街区中央部には現在も残る常光寺と千眼寺。脇往還と堅町の街区には一行院が記されている。一行院の跡には現在も稻荷神社が祀っている。次に、材木町と新紺屋町の間には宝性院と修驗道の加納院があった。東隣の街区中央部には西から東光寺、自福院、真照院が並んで建っていた。

榎原康政が計画的に作った
城下町の構造が今も残る。

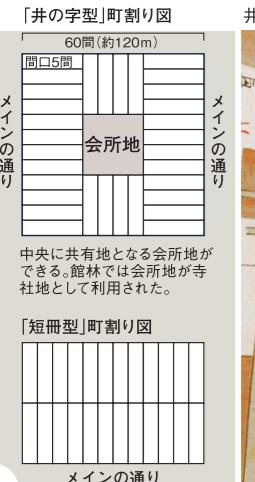
これぞ城下町の景観。

館林を活性化させるヒントは歴史にあり！

天正18年(1590)北条氏が滅び、柳原康政が館林へ。
文禄4年(1595)周囲を堀と土居で囲った惣構え(そうがまえ)の
館林城(城内/城下)を完成させた！関東有数の城下町となる。
城下町を東西に貫く主要道は三つ。並木町・塙場町通り、
鍛冶町・紺屋町通りと今回紹介する堅町・材木町通りだ。
江戸期の城下町街区そのものが残っている館林の魅力を探った。
その文化的価値に気づいて欲しい。

[城下町の町割り基本構造]

江戸建設期の町人地は京間(197cm)60間四方のグリッド状街区を基本に
都市計画された。地形により短冊型もある。
同時期、柳原康政も同じ考え方で館林城下町を造成している。
館林の町人地は井の字型がメインで短冊型もある(塙場町など)



江戸時代の記憶を今に伝える所それは寺。
城下町の中心部・堅町と材木町。井の字型町割りなので
中央の会所地には今も寺が残る。

千眼寺(せんげんじ)

[真言宗豊山派] 堅町(仲町)

鎌倉時代の貞永元年(1232)僧英弁の開山と伝えられる。柳原康政が城下町を築く以前からこの地に建っていたという。古くは京都嵯峨大覺寺直轄で、谷越町に宝幢寺(ほうとうじ)、小桑原村に宝蔵寺などの末寺があり寺運も盛んであった。

明治15年、火災で焼失。その後再建される。明治44年、大覺寺を離れて、奈良・長谷寺の門末となった。



觀性寺(かんしょうじ)

[真言宗豊山派] 材木町(仲町)

天正4年(1576)法印弘喜により創建され「觀音寺」と称した。古くは「材木町の薬師さま」とよばれ、薬師堂の祭礼はたいへんな賑わいであったという。眼病治癒信仰が篤く「目の絵馬」など多くの絵馬が奉納されている。嘉永元年火災により焼失。再建後も火災にあう。明治41年、寺の北にあった鞘町の自性院(じしょういん)を合併した。

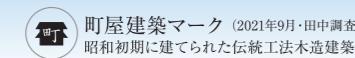


昭和25年堅町～材木町の町並み
旧館林信金・屋上から撮影 写真『館林川島惟知編』より



お散歩 堅町・材木町

マップ
Tatsumachi Zaimokucyo



館林城下町を東西に貫く主要道は3本ある。
北から塚場町通り、堅町・材木町通り
そして前回紹介した紺屋町通り。
(駅前通りは新しいのでカウントしない)
中でも活気のあった通りが、堅町・材木町だ。
江戸時代、明治・大正・昭和と大通りであった。
平成、令和となり、その面影は僅かに残っている。
堅町と材木町界隈には町屋が数件見られる。
実に貴重な景観だ。(維持している方々に感謝)
マップを手に城下町の趣(町屋と路地)を
味わう町歩きと、ふたつの貴重な近代建築
(旧市庁舎と旧館信本店)を眺める散歩を
オススメする。



館林・町屋文化の素晴らしさ

堅町にあった“対松亭”について教えて欲しい!
～俳人・荒井閑窓の庵～

小松宮彰仁親王(弘化3～明治36。陸軍大将、日清戦争では征清大総督)が関東平野の演習御監の際に館林で宿泊。宿泊場所が旅館ではなく荒井閑窓の庵。明治25年秋だった。(約130年前のこと)
殿下は清楚な閑窓の庵室にいたく喜んだ。そして「対松亭」と命名され、御染筆を賜った。閑窓も感激しその後、庵の名を對松亭としたという。
京都生まれの宮様が館林の住まいのしつらえに感動したのだ。どれだけ館林の町屋文化が高かったのか(荒井閑窓が素晴らしいのだけ…)
その対松亭は堅町にあったという。
今回いろいろ調べたがその実像がわからなかった。場所も建物も…。ご存じの方、ぜひご教授願いたい!(田中)

※小松宮は幕末から明治に活躍。騎馬像が上野公園内。

旧館林市庁舎

昭和38年(1963)年竣工。設計はモダニズム建築の巨匠・菊竹清訓で30代前半の最も才氣溢れる時代の名作。内井昭蔵、松井源吾、田中一光も参加した英才達の貴重な建築である。今でも多くの建築



●鉄筋コンクリート造 地下1階 地上5階

「館林城下町だより」

緊急提案

町の大通りである日光脇往還が激しく姿をかえつつある。
書店が消え、堺屋ビルが消え、谷越ビルも消えた……

道路拡張事業の目的は商店街の再興であったはず。
道巾が拡張され歩道が整備されても
はたして賑わいが戻るのだろうか……?
町はあきらめに似た喪失感に覆われている。

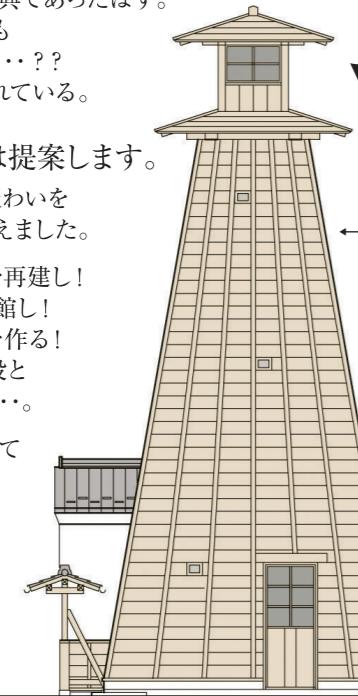
今こそ「館林城下町だより」は提案します。

歴史ある城下町の魅力を発信し、賑わいを取り戻す地域交流施設が必要と考えました。

そこには町のシンボル「箱火の見」を再建し!
蔵を利用した「城下町資料館」を開館し!
町屋を修復した集会施設やカフェを作る!
町の名産をPR・販売する多目的施設と
訪れた人々が休める広場を設ける……。

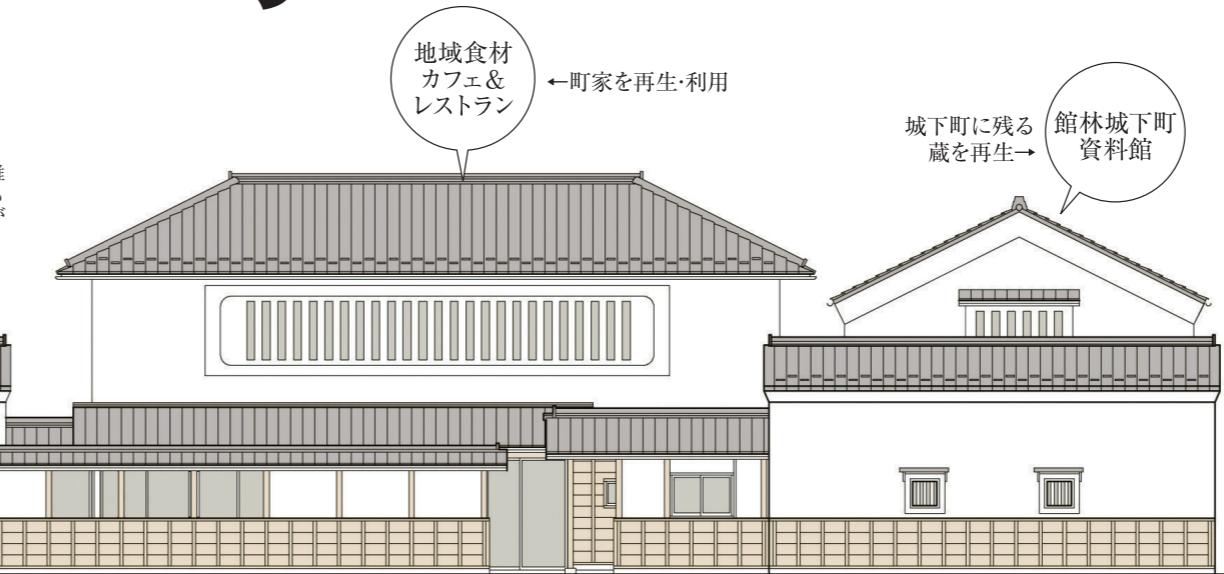
観光に役立ち集客を可能にし、そして
城下町の美しい景観を作りだす。
中心市街地に必要な施設です。

ぜひ提案をご覧下さい。



城下町館林を復活させる地域交流施設の提案

城下町ひろば



作図:荒島敏彦(塙場町で生まれ、北小・一中で学んだ生粋の城下町っ子。一級建築士)

「城下町ひろば」5つのコンセプト

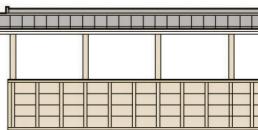
- ① 城下町として貴重な町並みの保存再生!
- ② 失われた中心市街地にシンボルを再建!
- ③ 郷土の歴史を誇りに思い体験する施設!
- ④ 町中に交流が生まれ人が集う活性施設!
- ⑤ 城下町の魅力を伝え観光に役立つ施設!

「城下町ひろば」いきさつ

今年に入り往還通りの解体工事が一気に進んだ。見慣れた町があっという間に更地になってゆく……この窮状を少しでも変えたいと同級生の建築士・荒島君と城下町の再生に役立つアイデアを出し合った。今までに塙場町・毛塙邸町屋保存活動が成功したこともあり(町屋を曳き家で4m下げて保存!),何ができることがあるはずと確信していた。

荒島君が探してきた徳島県三好市の町屋再生+地域交流施設プランが館林に応用できると考えた。それから半年かけて議論を重ね、今回提案する「城下町ひろば」としてまとめあげた。

(アイデアを図面化する力はさすが建築士!
素晴らしい。)
次ページで平面プランとアイデアを詳しく
紹介!どうぞご覧ください。(田中)



「館林城下町だより」
緊急提案

中心市街地交流拠点施設
「城下町ひろば」5つのコンセプト

① 城下町として
貴重な町並みの保存再生！



写真：三好市の地域交流拠点施設「MINDE」

残された貴重な町家を
再生し活用すること

貴重な町屋はわずかだが残っている。
改修し新たな機能を付加して役立てたい。
リノベーションして甦らせ。再生された
町屋が町の景観を美しく変える。
修景の手法を使い町を整えたい。

② 失われた中心市街地に
シンボル「箱火の見」を再建！

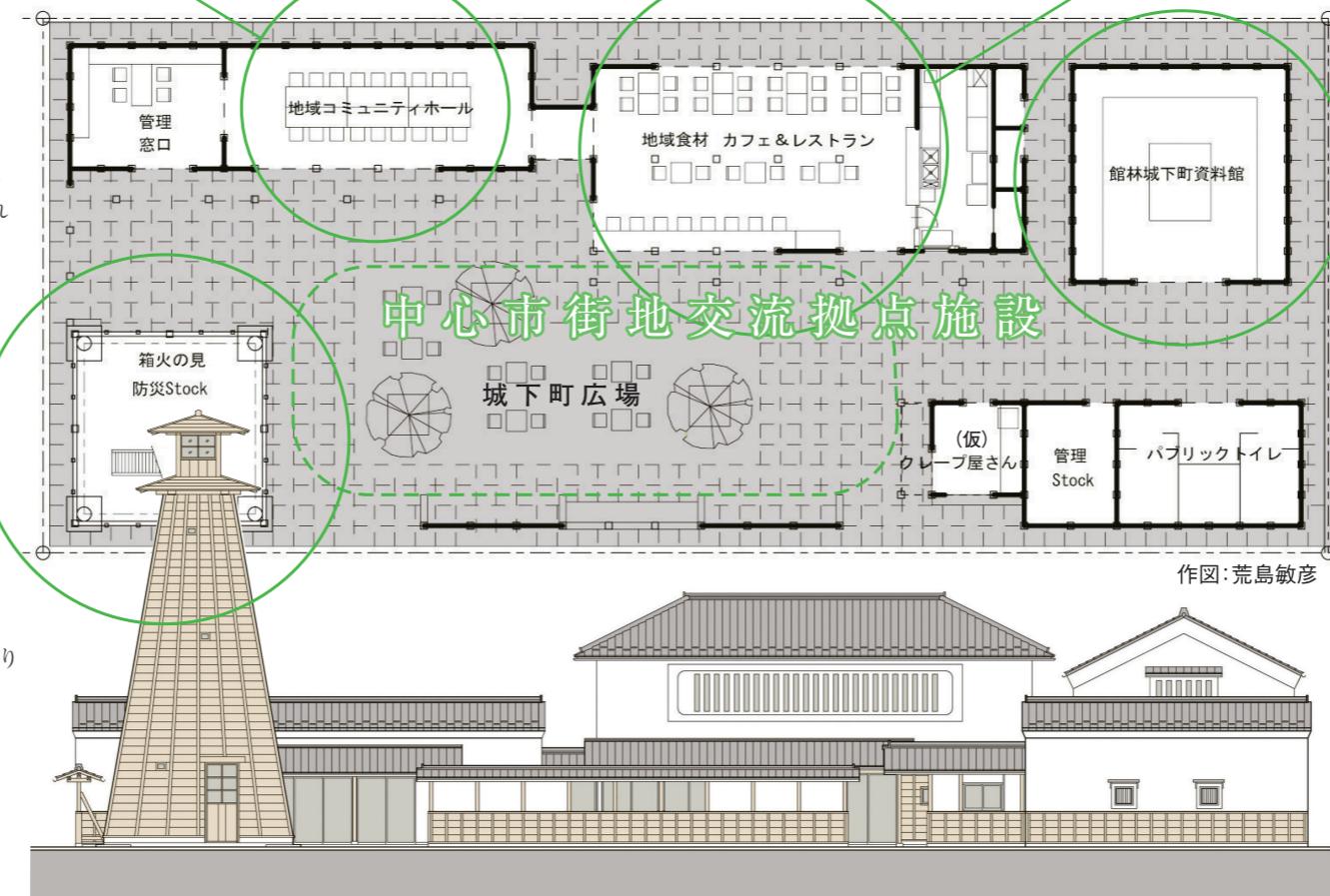


現存すればもうすぐ築200年
再建する機は熟した。

約130年間、城下町を見守ってきた
「箱火の見」。団塊世代の館林市民には
懐かしい建物だ。町の再生シンボルとなり
再建する意味は極めて大きい。
町が元気になる。
ランドマークができる。
城下町の観光シンボルとなる。
図面も残っているので再建可能だ。

地域に役立つ交流施設。
集会室や会議室、ギャラリー
としても利用できる。

あつたら良いね！町が元気になるよね！を形にしました。
城下町ひろば



③ 町中に交流が生まれ
人が集う活性施設！



町屋や蔵をリノベした落ち着きのある空間を、
カフェ、レストラン、ピストロのような店舗施設に利用したい。
昼は美味しいランチが食べられて、夜は賑やかな笑い声。
暗くなても店の灯りがともる場所が増えるだけで、
町は生き返る。

④ 郷土の歴史を誇りに思い
体験する施設「城下町資料館」



江戸時代から明治・大正・昭和の
歴史がわかる資料館

館林は康政公が城下町を築いて以来、
上州を代表する町であった。明治になっ
ても先人の努力により発展してき
た。その歴史を展示し後世に伝える
義務がある。町中に残る蔵を修復し商店
街の歴史も収蔵する資料館を作る。

⑤ 城下町の魅力を伝え
観光に役立つ施設！



東京から1時間少々。しかも鉄道・道路
ともにアクセス良好。この立地を活かし
お散歩感覚の歴史(江戸～昭和)体験に比較優位がある。
館林の豊かな歴史があれば、それは可能のことだ。
年間150万人の訪問客は夢じゃない。(城の再建が必須！)

着町・二葉見番

「館林城下町だより」緊急提案 城下町ひろば

実現にむけての
プロセス

勉強・説明会



意見交換



反映・提案



行政との協業
(市・県・国)



協業・実現



運用

このプランは場所が決まっているわけではありません。
肝心の事業資金があるわけでもありません。
あるのは、生まれ育った大切な町をなんとかしたい。再生したい!
できるはずだという希望だけです。
それでも実現に向けて動き出すには十分と思っています。
歴史を活用し貴重な城下町を
館林のブランドとして育てる!
それが町の再生・活性化に
繋がると考えています。

城下町ひろば
推進サポーター募集



市民と行政の協業で実現可能となるはず!

勉強会の成果をプランに反映し、市議・県議に提案し行政・商工会議所との協業を図る。
国の振興策・各種補助金の可能性を調べ、クラウドファンディングやスポンサー企業を探すなど
様々な制度を利用して実現化へ。多くの人の支持を得て行政が動けば実現可能!

「城下町ひろば」勉強会・説明会の開催!

実現に向けての第一歩は、「城下町ひろば」についての企画紹介と
建設的な意見交換会を開催すること。全国の事例も研究すること。
同時に町屋の維持や再生、町の景観についての勉強も図りたい。
そして検討されたアイデアや企画を公表すること。

第1回 勉強会&説明会
10月30日(土) 15時~17時
会場: 谷越会館
(日時変更になる可能性があります)
幹事: 荒島/田中

コラム
箱火の見
研究

め
ざ
せ
再
建
!

堅町に昭和34年 「箱火の見」

歴史を調べると、江戸火消との深い繋がりがあった。

文政8年(1825)に
建ったと仮定すれば
200周年まで4年。
十分な時間がある
ぜひ再建しよう!

【館林の箱火の見】

文政7年(1824)城下町大火により、
藩主・松平齊厚(なりあつ)は江戸火消
制度に習い町の消防組を整備(一番
組と二番組)した。江戸堀留にあつた
火の見櫓を模して堅町に「箱火の
見」(一番組)が建てられた。
[館林市史]特別編6巻114pより



調べてみると確かに堀留に火の見櫓があったが外觀
が少し違う。外壁の下半分がない低コスト櫓だ。

*二番組の番屋にも火の見櫓があったはず。(調査中)

昭和30年撮影:萩原恵三郎

推論
半鐘を鳴らし火事を知らせる目的の火の見櫓。廉価版はハシゴだけで上部に半鐘がつく。
下半分が剥きだしの櫓は絵図のように町人地に建つ。
外壁を板で覆ったものは武家地。並・上・特上の関係だと
思う
館林は特上だ!
笑!



慶応元年(1865)、
愛宕山から見た江戸の町並み。ペアトが
撮影したパノラマ写真には多くの箱火の
見櫓が写っている。

武家地に建つ箱火の
見は外壁が板で覆わ
れている。



江戸名所図会(えどめいしょずえ)
「堀留(日本橋の近く)」 天保年間(1814年)
1856年(安政3年)



歌川広重 「名所江戸百景・馬喰町馬場」
1856年(安政3年)

レポート①

城下町に残された文化遺産を活用し町の魅力をアップします！

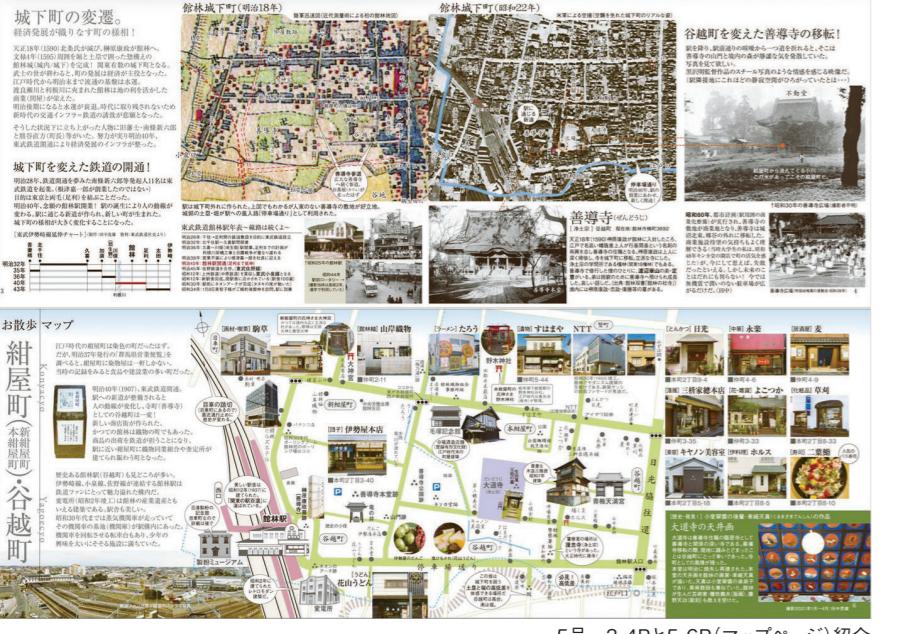
企画:館林城の再建をめざす会



ミニタウン誌『館林城下町だより』5号は紺屋町(本・新)特集！

5月16日発行(12頁、1200部制作)

バックナンバーサイトを作りました
創刊号からのバックナンバーが読める



5号 3-4Pと5-6P(マップページ)紹介

レポート②

企画:邑楽館林歴史活用研究会

邑楽館林 歴史をひもとき、地域を町を人を豊かに! 歴史活用研究会

【研究会の趣旨】

邑楽館林地域に残る旧跡・文化財及び古民家などの歴史的意義、役割、伝承を知り郷土愛を深める。
昨年7月に活動開始した。

【活動目的】

郷土の歴史と史跡を活かし、邑楽館林地域の活性化を目指す。

◎具体的には-----

学問的歴史探求(知識習得)をめざす研究会ではなく、歴史の本質を掴み、それを現在と未来への活力・知恵に変え、具体的な活用に繋げていくことを骨子とする。平たく言えば、歴史を活かしてふるさとを豊かにすること。ふるさとの魅力を発見し伝えること。

第5回定例会開催 7月17日(土)

【会場:優風館(小桑原)】 7名参加
会長の活動拠点である優風館で初めての定例会。2013年に開催した「よみがえる館林城展」で使用した館林城石垣実物大の展示プリントを囲み、話しが弾んだ。高さ約6メートルの石垣は迫力がある。見ているだけで想像力が刺激される。

議題は日光脇往還の道路拡張で様変わりする町の景観について。明和町の文化財保護政策の現状と提案。



上毛新聞記事 2021年6月1日



上毛新聞記事 2021年6月1日



▲優風館にて

第6回定例会開催 9月18日(土)

【会場:ふく多えん(裏宿)】 10名参加
会場の「ふく多えん」は裏宿にあり、裏宿は館林城内の侍町(武家地)。「ふく多えん」は武家屋敷の敷地をそのまま継承している貴重な場所だ。歴史活用研究会の会場としてふさわしい。

事務局長が駐車場も手配してくれて準備万端でした。

議題は大きくふたつ。城下町中心市街地の活性化と明和町の文化財振興についての議論とやるべきことを決定。



▲ふく多えんにて

レポート③

企画:ご近所健康クラブ“ふく多えん”

ご近所健康クラブとして古民家再生できました!

7月24日(土)オープン記念&のれん贈呈式

「ふく多えん」はご近所で活用できる文化交流施設。程よい活動とのんびりした時間を共有して、ご近所の健康に役立つことを目指している。高齢化社会を楽しむ拠点です。(田中)



館林のこどもを鍛える!



空手を始める子供たちが増えています。
会員は館林だけでなく、足利、千代田、明和、板倉からも。
武道の精神で元気なこどもが育っています!

生徒募集 体験は無料。
稽古開始前に直接道場へ。
詳しくは優風館サイトで。



優風館
空手道場
長:田中茂雄

空手会 館林支部
優風館
空手道場
長:田中茂雄
小桑原町855-1